



真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信

【発行元】 中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp
ホームページ <https://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.67



ごあいさつ ~山積する課題に対して、愚直に、果敢に~

皆様の温かいご支援により、5期目の議員活動がスタートし、早いもので9ヶ月が経過しました。

新時代『令和』にとって最初の年明け——。この2020年は、3月に『全国いちごサミット』の開催、さらに9月には市役所の新庁舎開庁が予定されるなど、真岡市にとりましても明るく、大きな話題が続く年となります。その一方で、人口減少問題をはじめとして、決して看過できない数多くの課題が、この地域に山積しているのも事実です。

昨年4月の市議選において、私は『2040年 輝く未来であるために』というテーマとともに『子育て・教育環境の充実』、『協働と支え合いのまちづくり』、『議会の活性化』などの公約を掲げましたが、それらの実現に向けて愚直に、果敢に挑んでまいります。皆様の変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



議会報告会・意見交換会にて

真岡市議会議員 中村 和彦

一般質問が実現しました！



真岡市の
最上位計画

「市勢発展長期計画」から「総合計画」に名称変更

真岡市において最上位の行政計画は、初めて策定された昭和45年から『市勢発展長期計画』という名称が用いられ、今日まで至っています。

しかし、本格的な人口減少時代、成熟社会となった中で、最上位計画の名称として『市勢発展』という言葉がふさわしいのか指摘をしたところ、令和2年度から名称が『総合計画(真岡市総合計画2020-2024)』に変更となりました。

※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

12月定例議会報告 12/2▶12/18

12月定例議会が、12月2日(月)から18日(水)の17日間にわたって行われました。

今回、執行部から提出された議案は『総合計画基本構想の策定』や『景観条例の制定』、さらに『指定管理者の指定』(真岡駅子ども広場、市民会館・公民館・青年女性会館)など計25件で、いずれも原案通り可決されました。

一般質問

議員による質疑・一般質問

は、9日(月)、10日(火)の2日間行われ、中村は10日の4人目として登壇し、執行部との論戦を開きました。

執行部は答弁の中で、

◆総合計画の最重要課題は、人口減少・少子高齢化社会への対応であること

◆市民会館の自主事業を、新年度から指定管理者の自己資金で実施すること

などの考えを明らかにしました。



中村が行った一般質問の内容

1.「真岡市総合計画2020-2024」と現計画との比較について

- (1) 第11次市勢発展長期計画及び増補版に掲げた施策の達成状況について
- (2) 最重要課題及び今回新たに掲げた施策について

2.「真岡市総合計画2020-2024」において設定された成果目標について

- (1) フィルムコミッションの推進について
- (2) 空き家バンク成約数の根拠と今後の具体的な取り組みについて
- (3) 職員研修の充実について

3.「真岡市総合計画2020-2024」に掲げられた教育施策について

- (1) 科学教育センターについて
- (2) コミュニティ・スクールについて
- (3) 食物アレルギー等のある児童・生徒への対応について

4.教育関係の諸課題について

- (1) ICT教育とアクティブ・ラーニングについて
- (2)『教育研究所』の設置について

5.文化事業の振興について

- (1) 二宮尊徳翁を題材としたNHK大河ドラマの誘致活動について
- (2) 市民会館の自主事業について

6.立地適正化計画について

- (1)『ネットワーク型コンパクトシティ』について
- (2)『まちなか保健室』の整備について

7.投票所の見直しについて

- (1) 最寄りではない投票所が指定されている地域について

(中面に関連記事)

市民と市政のかけ橋になりたい！
☆お気軽に声をかけて下さい。
あなたのアイディアを市政にいかしたい！
お友達との井戸端会議勉強会等。
もお伺いいたします。
お気づきの点がございましたら、どんなさいなことでも結構です。
ぜひご意見を！

「見逃した！」という方に
バックナンバーをお送りします

これまで『未来をつくる会』では、毎回定例議会終了時に、「中村かずひこ通信」を発行してきました。1~66号までを見ることができます。

次回の「中村かずひこ通信」は
次回発行予定期
4月26日(日)
発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧下さい。



中村かずひと議会レポート

12月定例議会 一般質問

質問:中村かずひと

1.『真岡市総合計画2020-2024』と現計画との比較について



【答弁者】	石坂 真一 田上 富男 成毛 純一 石田 誠 添野 郁 皆川 聰 加藤 敦美 上野 雅史	市長 教育長 総務部長 健康福祉部長 産業部長 建設部長 教育次長 選挙管理委員会書記長
-------	---	---

質問 この12月定例議会では、令和2年度以降の真岡市の最上位計画となる『真岡市総合計画2020-2024』の基本構想部分が議案となっている。では、現在の最上位計画である『第11次市勢発展長期計画』及び『増補版』に掲げられている各施策の達成状況について、執行部ではどのように分析をしているのか。

答弁 成果水準の高い施策としていちごの販売額増加や新規就農者の育成・確保などが挙げられる。その一方、全国学力・学習状況調査の平均正答率上昇を目指しているが、小学校における平均正答率が栃木県の平均を下回っており、今後の課題であると考えている。

質問 『真岡市総合計画2020-2024』は、本当の意味で“石坂カラー”が前面に出た最初の計画であると思うが、この計画において最重要課題は何であると考えているのか。また、これまでの計画ではなく、今回新たに掲げた施策にはどんなものがあるのか。

答弁 総合計画の最重要課題は、人口減少・少子高齢社会への対応と考えており、子どもを安心して育てられる環境づくりや若者が定住できる魅力づくり、公共交通の充実化などを挙げている。新たな施策としては、都市ブランド戦略の推進を掲げており、日本一のいちごを核として、積極的なシティプロモーションに努めていく。

2.『真岡市総合計画2020-2024』において設定された成果目標について



質問 フィルムコミッションの成果目標が撮影に至った実績ではなく、撮影に関する問い合わせ件数をしている理由は何か。近年の状況を考えると、問い合わせ件数が多いものの、実際の撮影に至っていないことが課題であると感じるのだが。

答弁 実際の撮影は、制作会社から示された条件に合わなければ実現しない。一方、撮影に関する問い合わせは、真岡市に興味・関心が寄せられた結果であり、こちらの方が真岡市の知名度向上につながるものと考えた。

再質問 平成30年度に問い合わせが44件あったのに対して、令和6年度の目標が50件となっている。目標設定としては低すぎるのではないか。

答弁 これまでの実績などを踏まえて、このような目標に設定した。今後、フィルムコミッション自体を強化し、目標達成できるようにしていきたい。

要望 これは市長の肝いりの施策である。成果目標を問い合わせ件数で設定するにしても、目標はもっと高めに設定するべきではないか。今後、成果目標の修正を行う機会があるのならば、こうした部分について検討していただきたい。

質問 『真岡市総合計画2020-2024』を見ると、空き家バンクの成約数を令和6年度までの目標として、累計で30件と設定している。その数値的根拠と、今後の具体的な取り組みは。

答弁 これまで空き家バンクの成約実績は、平成29年度と30年度が各3件、令和元年度が11月末現在で4件となっており、今後5年間の見込みを年4件とした。今後は空き家バンクの未登録者に、案内書の送付や意向調査・実態調査を実施していく。

質問 『真岡市総合計画2020-2024』では、市職員の研修について、職場外研修の満足度を成果目標として設定している。しかし、職員の研修への参加状況を考えると、参加率こそ成果目標にすべきではないか。

答弁 職員研修については、受講した職員が研修の目的や内容を理解し、資質を向上させることが最も重要であると考えており、どれだけ有意義な研修であったかを図ることができる満足度を指標とした。

再質問 参加率が上がらない中で満足度を高めても、事業全体として効果は薄い。まずは参加率を上げ、上がった後で満足度を高めるのが本来の流れではないか。

答弁 真岡市の職員研修は、受講者を指定している。そのため、現時点でも参加率はほぼ100%であり、参加率を成果目標とするのは困難である。

要望 市の決算を見ると、毎年職員の研修費で未執行の部分が多い。そういった点は今後の課題であると考える。

3.『真岡市総合計画2020-2024』に掲げられた教育施策について



質問 『真岡市総合計画2020-2024』を見ると、科学教育センターの運営について『理科学習の質の向上』ということが掲げられている。質の向上とはどういうものを指すのか。また、現在の内容と変更点はあるのか。

答弁 新学習指導要領では、子ども達が主体的に学びながら、問題解決への力を養う授業が求められている。そのため、科学教育センターのICT環境を見直すとともに、独自に開発した学習コンテンツを活用し、市内の各学校で電子黒板やタブレットを使いながら、科学教育センターと同様の授業が再現できる環境を整えていく。

質問 『真岡市総合計画2020-2024』では、保護者や地域住民が学校運営により深く関わる『コミュニティ・スクール』の調査・研究ということが掲げられているが、具体的にはどのように進めていくのか。

答弁 現在、県内外の市町村の先進事例について、情報収集に努めているところである。今後は、市内の学校や地域の実情を考えながら、地域と連携した学校づくりについて、引き続き調査をしていく。

再質問 『コミュニティ・スクール』は、栃木県内でも9市町すでに導入されている。したがって、調査を進めるにしても、工程表のようなものがあって然るべきではないか。

答弁 『コミュニティ・スクール』の導入については、行政の対応以外に地域の理解・協力が不可欠になる。そういった部分も十分に調査研究していきたい。

質問 『真岡市総合計画2020-2024』では、食物アレルギーのある子ども達への対応としてエピペン使用を含めた教職員研修の実施などが掲げられているが、今後の具体的な進め方は。また、アレルギーという命にも関わる問題であるものの、教員によって対応にバラつきがあるという保護者からの声がある。教員間での情報共有化も課題と思われるが。

答弁 食物アレルギーのある子ども達については、平成27年に栃木県が作成した『学校におけるアレルギー疾患対応マニュアル』をもとに各学校が対応している。また、校内での研修・訓練も実施しているところである。学校での情報共有については、保護者から食物アレルギーの有無やエピペン所有について情報を共有するとともに、小学6年生については入学前に中学校へ情報提供を行い、アレルギー事故の未然防止に努めている。

再質問 保護者からの声と答弁に食い違ひが見られるのは、制度はあるものの教員間での意識が統一されていないからではないだろうか。その辺りは、総合計画に新たに盛り込まれたエピペンの研修などと併せて、教員個々の意識づけも徹底していただきたいと思うのだが。

答弁 子ども達の命に関わることなので、研修などを充実させ、全ての教員が共通認識のもと対応できるよう徹底していきたい。

4.教育関係の諸課題について



質問 現在、教育の現場では、子ども達がグループディスカッションなどを通じて能動的に学ぶ取り組み『アクティブ・ラーニング』を、いかに進めていかが大きな課題となっている。真岡市はICT教育に力を入れているところだが、これら2つの課題を並行させてどのように展開していく考えなのか。

答弁 授業での電子黒板やタブレットの活用は、子ども達の学習への興味・関心を高め、互いの考えを共有して話し合い、教え合い、学び合う『協働学習』に非常に効果的である。真岡市教育委員会では、ICT導入モデル校での公開授業や機器の操作研修を進めてきたが、今後もICTを活用し、アクティブ・ラーニングの視点での授業を各学校で実施していきたい。

質問 教育分野の様々な課題を考えた時、戦略を立てる部署の必要性を強く感じる。
教育研究所の設置については、先頃提出した会派の建議要望にも盛り込んだが、
教育委員会からの回答によれば『今後も教育研究所の働きに相当するように、指導体制
の充実を図っていく』とのことだった。教育研究所の役割・重要性は認識しつつも、そのもので
はなく、相当するものしか目指さないとは一体どういうことか。

答弁 真岡市は、教育研究所を設置していないが、教育施策の検討、各教科の研
究や教職員の研修などについて、役割や内容に応じて対応している。
また、学校教育課、科学教育センター、自然教育センターには指導主事、適応指導
教室には経験豊富な教職員を配置し、真岡市独自の教育事業を企画・実施をして
いるので、現時点では教育研究所を設置する考えはない。

再質問 校務支援システムやICT教育などの課題が、他市町よりも遅れたことを見ても、
真岡市が教育研究所を設置していないデメリットが如実に表れていると思う。
これから教員の働き方改革が始まると、これまで以上に時間的な制約も生まれる。
個々の案件を個々に頑張るだけでは、自ずと限界も見えてきてしまう。
だからこそ、教育分野の戦略を立て、時には優先順位をもつける教育研究所の存在は
不可欠ではないか。

答弁 真岡市の教育施策は決して遅れている訳ではなく、慎重に検討して
実施している点は強調しておきたい。
確かに、教育の企画を考える部署は必要であるが、教育研究所のように独立した
組織を設けた方が効果的なのか、十分に検討しなければならない。
現時点では、学校教育課の中に7名の指導主事がおり、それぞれが専門性
を有しているので、その組織の中で考えていきたい。

要望

少し皮肉を込めて言えば、随分のんびり検討していると感じる。
校務支援システムの導入などは、県内の自治体の中でも特に遅かった。現場の教員達は、その間デメリットを被っていたことになる。慎重な検討というだけでは片付かない。
下野市の教育研究所では、教員60名を研究員として委嘱し、教育の各分野について研究をしている。現場の声がより通りやすい体制であると思った。
県南6市を見ると、真岡市以外の足利、栃木、小山、佐野、下野の5市には、自前の教育研究所があるので、そういったところをよく研究していただきたい。

5.文化事業の振興について

質問 11月17日に市民会館で、映画『二宮金次郎』の上映会があり、1,352名が観賞
した。尊徳翁のことを『もっと知りたい』と考えている市民が多いという表れだろう。
尊徳翁が活躍した時代は、人口減少、低成長、度重なる自然災害など、現在の状況と
極めて似ており、今を生きる私達が学ぶべき点が多い。
尊徳翁を題材としたNHK大河ドラマの誘致運動を、より積極的に推進してはどうか。

答弁 真岡市は、尊徳翁ゆかりの17市町村で組織する『全国報徳研究市町村
協議会』に加盟している。そこで、掛川市、小田原市、日光市、
南相馬市とともに『二宮尊徳NHK大河ドラマ化推進委員会』
に加わっている。今後も引き続き、連携を図りながら、誘致活動を進めていく。
また、映画上映権とセットで購入した電子媒体を、各学校の電子黒板による
学習に活用することも予定している。

再質問 全国にいちごの生産地が数多くある中で、真岡市は先陣を切って『全国いちごサミット』を企画した。
NHK大河ドラマの誘致活動についても、複数の自治体が足並みをそろえて行う
のは難しいと感じる。真岡市が先陣を切るという発想が場合によっては必要では
ないか。

答弁 『二宮尊徳NHK大河ドラマ化推進委員会』の会長は掛川市長なので、
会長を差し置いて真岡市が前に出るというのは難しいと思う。
11月に筑西市で行われた『全国報徳サミット』でも誘致に向けた話が
出たので、積極的に推進していきたい。

質問 市民会館のような施設で行われる事業は、その自治体の文化レベルを示すバロメーターの
ようなものである。市民会館の自主事業費は、以前と比べれば幾分増えてはいるが、
他市町と比較すると決して十分ではない。
来年度から、市民会館に指定管理者制度の導入が予定されている中で、今後の自主事業の
あり方をどのように考えているのか。

答弁 令和2年4月1日から、指定管理者制度の導入を予定しているが、公募に
あたっては、自主事業を指定管理者の自己資金で実施すること、
子ども向け事業やクラシックコンサート事業を含め年間5~10公演の事業
を計画することを条件とした。
なお、自主事業を実施する際には、計画書を作成し、市の承認を得ることにしており、
これまで通り市民会館運営審議会や来場者の意見を求めていく。

再質問 市民会館の自主事業を、指定管理者の自己資金で行うことだが、そうした
手法は他市町でも行われていることなのか。また、指定管理者として選定された事業者は、
同じような手法で施設の管理・運営を行ってきた実績はあるのか。

答弁 指定管理者の候補となった事業者は、全国展開をしており、実績が
あるので特に問題はないと考えている。

再質問 今後も市民会館運営審議会は機能させ、費用については指定管理者側に負担を求める
とのことだが、言い方を変えれば、市としては『口は出すが、金は出さない』と
いうことになる。自治体の文化事業として問題はないのか。

答弁 候補者となった事業者は、栃木県内でも栃木市や佐野市などで、同様
の管理・運営をしており、これまでと遜色のない活動が展開される
ものと考えている。

6.立地適正化計画について

質問 本格的な人口減少時代に突入し、いかにして都市機能の集積を図っていくかは大きな
課題であるが、その一方で、郊外部のコミュニティ維持も忘れてはならない。
現在、真岡市では『立地適正化計画』が策定されているが、計画案の中で掲げられている
『ネットワーク型コンパクトシティ』とは、どのような状況を指すのか。

答弁 『ネットワーク型コンパクトシティ』は、市街化区域において、医療や福祉、
商業などの都市機能を維持する区域と、現状の人口密度を維持する
区域を定め、公共交通で結びながらコンパクトなまちづくりを目指すものである。
また、郊外部においては、地区の特性に合ったまちづくりを目指す『地区制度』
の導入や、公共交通ネットワークの構築などにより、安心して暮らして
いける地域コミュニティの維持・保全を図っていく。

再質問 つまり『ネットワーク型コンパクトシティ』とは、市の中心部と郊外部の
双方で定めた拠点を、公共交通で結ぶ仕組みという認識でいいのか。

答弁 『立地適正化計画』は、まず市街化区域中の都市機能を維持する区域と、
人口密度を維持する区域を公共交通で結ぶというのが本来の趣旨である。
しかし、既存集落の中で地域コミュニティが形成されているので、今後は既存
集落と中心拠点を公共交通で結ぶことを考えていく。

再質問 そうなると、まず公共交通で結ぶのは、あくまで中心部ということなのか。

答弁 本来『立地適正化計画』は、市街化区域を対象としたものである。
市街化区域の中で、公共交通で結ぶというのが最初の段階になる。

再質問 9月の定例議会で『将来的にコンパクトシティを目指すのか』との質問に対し、市長は『中心部
のにぎわい創出は考えているが、あくまで地域間格差をなくして生まれ育った
場所に住んでいただこうことが一番大事である』と答弁をしていた。
その考え方と今回の『立地適正化計画』で、整合性が取れているのか疑問に感じるが。

答弁 それぞれの地域において今住んでいる方々がいる。その地域の個性を
大事にしながら、公共交通なども活用して地域間の連携を図り、
コンパクトシティの役割を担う拠点を作っていくことができればと考えている。

再質問 今回の『立地適正化計画』の中で、拠点を作るのは市街化区域だけで、郊外部に作る
考えはないのか。

答弁 市街化区域内の拠点は定めているが、郊外部についてはまだ定めて
いない。今後、公共交通の整備計画なども勘案して検討する。

質問 市の中心部、郊外部とも、各地区において拠点となるエリアを作るならば、その
拠点に人が集まる必然性も作っていかなければならない。
各中学校区を自安に『まちなか保健室』を整備してはどうか。市民が気軽に立ち寄れる
場がないと、拠点を作ることは難しいと思うが。

答弁 現在『まちなか保健室』は、真岡駅前と田町北交差点の2ヶ所に設置して
いる。これらは、地元区の協力を得て、毎日開設をしているものである。
今後も、区の協力者や利用者が比較的多い中心部での整備を考え
おり、郊外部での設置は今のところ考えていない。

再質問 『まちなか保健室』は、当面中心部での整備を考えているとのことだが、新たな開設に
向けた動きは何かあるのか。

答弁 新たな保健室の整備については、地元の協力が不可欠なので、要請が
あった場合は協議を進めていく。

7.投票所の見直しについて

質問 真岡市内を見渡すと、最寄りではない投票所が指定されている地域は少なくない。
投票率向上のため、可能な限り投票所の利便性を高めることは、選挙管理委員会
の重要な役目ではないだろうか。
特に高齢者から、移動手段が乏しい中で、投票所まで行くことが難しくなっているという
指摘も受けているが。

答弁 投票区の区割りについては、有権者数のバランスや投票所までの距離、
自治会とのつながりなどを考慮して設定されている。
したがって、見直しについては安易に行うべきではないと考えているが、
今後地元からの要望があれば、選挙管理委員会において可否を検討していく。



会派『もおか新時代』& 視察研修報告

11月に会派『もおか新時代』と議会運営委員会による視察研修を1回ずつ実施しました。

1 会派『もおか新時代』視察 [11月12日~14日]

視察地：徳島県海陽町・愛媛県四国中央市・高知県高知市



海陽町

『阿佐海岸鉄道』は、令和2年からDMV（デュアル・モード・ビークル）を、世界で初めて本格走行させることになった。

DMVは、線路と道路の双方を走ることが可能な車両のこと。現在は規制が厳しいため、普及に向けてハードルは高いものの、運行コストを抑制し、鉄道とバスの併用が可能であるため、将来的に地方の公共交通を支える切り札になるように思われる。

今回の視察では、右記の金額が
公費でまかなわれました。

※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。



四国中央市

四国中央市の『子ども若者発達支援センター』は、保護者からの相談や子ども達の機能訓練、さらには放課後等デイサービスなど、様々な役割を担っている。

現在、このセンターには公認心理士、社会福祉士、言語聴覚士などの有資格者を含め、40名を超えるスタッフが勤務し、子ども達が育つ過程での支援を一貫して行っている。彼らがいきいきと仕事をしていた姿が強く印象に残った。



高知市

真岡市でも『新庁舎周辺整備事業』の一環として、図書館の移転が計画されている。こうした中、全国で初めて県と市が共同で整備した図書館『オーテピア』を視察。

注目すべきは、徹底してバリアフリーにこだわっている点。1階に『声と点字の図書館』が設けられているほか、障がい者が読書を楽しむための設備も充実している。誰もが訪れるやすい施設にするために、参考になる点は非常に多かった。

今回の視察では、右記の金額が
公費でまかなわれました。

※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。

総額 93,073円 出所 政務活動費 内訳 交通費、宿泊費、相手先みやげ代

2 議会運営委員会視察 [11月20日~21日]

視察地：東京都八王子市・千葉県柏市

※今回は、議会だより編集委員会との合同による視察でした。

八王子市

現在、八王子市議会で力を入れているのが、議会基本条例（平成25年に制定）の検証作業。条例に盛り込まれながらも進捗の遅い課題について、専門家や学生とともに話し合いを行ってきた。

現在は、それに基づいて『市民モニター制度の導入』や『大学との連携協定』などの改善策を進めている。



今回の視察では、右記の金額が
公費でまかなわれました。

※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。
※議員日当（3,300円×2日）の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額 34,283円 出所 議会費のうち旅費など 内訳 交通費、宿泊費、議員日当

コラム すーむあっぷ

今、教育の現場は大きな変革期にあると言つていい。昨年度から『新学習指導要領』の移行措置がスタートし、令和2年度には小学校、翌3年度には中学校で全面実施となる。特に、小学校においては『プログラミング教育』が必修化され、さらには3・4年生からの『外国語活動』も始まるため、注目を集めているところである。

子ども達の学力向上が叫ばれている一方で、いかにして体力を向上させるかということも議論されている。グローバル社会だから英語教育、はたまた国際人として何よりも必要なのは、自国の文化と歴史への理解だという意見もある。さらに、不登校や特別支援教育をはじめ、デリケートかつ専門性を問われる課題も多くなっている。こうした教育界に山積する課題に思いを馳せると、改めてこの分野において、戦略を立てる部署の必要性を痛感する。

クドいほど

私が『教育研究所』の設置を訴える理由

今、栃木県内を見渡すと多くの市や町が、独自の『教育研究所』を有している。県南6市に限れば、真岡市以外の足利、栃木、小山、佐野、下野の5市は、すでに設置をしている。それぞれの研究所では、現役の教員、さらには臨床心理士やスクールカウンセラーなどを配置し、学力向上や不登校、特別支援教育など、教育分野の課題に対する調査研究や計画立案、教職員を対象とした研修会の開催、さらに生徒や保護者からの相談業務などを行っている。

12月定例議会での一般質問に先立ち、私は下野市の『教育研究所』を視察した。現在、この研究所では、市内の小中学校に勤務している教員約60名を『研究員』として委嘱し、教員分野の様々な課題について担当ごとに分かれて調査研究をしているという。

一方、真岡市においては、平成28年度から学校教育課の中に指導係を設け、7名の現役教員が『指導主事』として配置されている。それぞれに専門性を有しているとは言え、下野市の『教育研究所』と比較すると、現場の意見の反映度や対応しうる教育課題の範囲などでは、大きな開きがあるよう思えてならない。

真岡市に『教育研究所』がないということは、ICT教育の取り組みや教員の多忙感解消を図るために校務支援システム導入といったことについて、他市町よりもスタートが出遅れたことと決して無関係ではないと私は考えている。

今後『教員の働き方改革』も本格化する。教育現場での時間的な制約も生まれる中では、教育分野のトータルプロデュースがこれまで以上に重要性を帯びてくる。今年9月に、市役所の新庁舎がオープン予定であるが、その前後の時期は、組織機構を見直す絶好のタイミングではないだろうか。

中村かずひこ活動日誌

10月

1日	市政功労者表彰式典 議会活性化等検討委員会	21日	あいさつボランティア 会派代表者会議
3日	大谷公民館主催ハイキング（於：茨城県ひたちなか市）	23日	議会運営委員会 議員協議会 総務常任委員会勉強会
4日	地方議員研究会セミナー（於：東京都中央区）	24日	会派『もおか新時代』勉強会
6日	井頭マラソン 元高萩市長草間吉夫氏講演会（於：宇都宮市）	25日	真岡高等学校創立120周年記念式典 真岡西中学校創立30周年記念式典
7日	あいさつボランティア	26日	星雅人・大田原市議「市政報告会」（於：大田原市）
8日	栃木県市議会議長会議員研修（於：矢板市）	28日	あいさつボランティア 議会報告会・意見交換会
15日	『ひばりの会』定例会		
17~18日	全国若手議会議員の会OB会研修会（於：長野県佐久市）		
20日	八條地区敬老会		

11月

1日	関東若手議会議員の会茨城ブロック研修会（於：茨城県常総市）	18日	あいさつボランティア 真岡地区PTA連絡会との意見交換会
2日	大谷福寿会定例会	19日	真岡市教育祭 会派建議要望の回答書受け取り
3日	地域公民館まつり	20~21日	議会だより編集委員会・議会運営委員会視察研修（東京都八王子市、千葉県柏市）
5日	身体障がい者福祉会視覚部会研修に同行（於：東京都豊島区など）	25日	あいさつボランティア 会派代表者会議
7日	会派『もおか新時代』ミーティング 芳賀郡市町議会議員自治研修会		
9日	明治大学雄辯部OB会総会（於：東京明治大学）		
10日	大田原市議会議員選挙の応援 大谷地区文化祭		
11日	あいさつボランティア いちご一会木国体・とちぎ大会真岡市実行委員会総会 真岡新聞音見作業（『ひばりの会』の活動として）		
12~14日	会派視察研修（徳島県海陽町、愛媛県四国中央市、高知県高知市）		
15日	大田原市議会議員選挙の応援 真岡自然観察会		
16日	倉山満氏講演会（於：栃木市）		

12月

2日	あいさつボランティア 12月定例議会開会	12日	民生文教常任委員会を傍聴
3日	『ひばりの会』定例会	13日	産業建設常任委員会を傍聴
6日	ひまわり園訪問（『ひばりの会』の活動として） 身体障がい者福祉会お楽しみ会 下野市教育研究所を個人視察	16日	あいさつボランティア 総務常任委員会 会派代表者会議
9日	あいさつボランティア 質疑・一般質問1日目	18日	議会運営委員会 12月定例議会閉会 議会だより編集委員会
10日	質疑・一般質問2日目 ※この日、4人目として登壇	19日	叙勲祝賀会 あいさつボランティア
11日	年末の交通安全県民総ぐるみ運動街頭指導	23日	